

植木センターだより

令和6年 第2号 (Vol.151)



サルスベリ(矮性)

サルスベリ（別名百日紅^{ひゃくじつこう}）は、ミソハギ科サルスベリ属の落葉高木です。すべすべした幹肌が特徴で、夏から秋の長期にわたって紅色の花が咲きます。原産は中国南部で、本来のサルスベリは最大10mほどになる高木ですが、矮性サルスベリの品種は小さくまとまり、庭の小さなスペースでも手軽に育てることができます。

目次

2024年春期の県内植木市場における取引動向	1
トピックス（新規調査課題）	3
緑化木の主要害虫 No.35（アオドウガネ）	5

2024年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは1986年から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、2008年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期も減少しました。

全体では前年同期（約9.8万本）から減少し、8.7万本で、前年同期比は89%となりました。用途別では、一般植木は前年同期比90%、株・玉物は86%、生垣用樹は95%で、一般植木、株・玉物、生垣用樹すべてにおいて減少傾向が見られました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約2.6万本で、前年同期（2.9万本）より約0.3万本減少しました。2008年代後半には4万本程度まで減少し、最近では3万本前後の取引量となっています。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類が多く、続いてキンモクセイ、ツバキ、カシ類で、昨年からはカエデは減少し、キンモクセイ、ツバキ、カシ類は増加しました。仕立物ではクロマツを始め、全体的に低調のままで減少傾向でした。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約4.4万本で、前年同期（5.1万本）より約0.7万本減少し、下げ止まりの状況かと思われます。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類、イヌツゲで約99%を占めています。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約1.7万本で、前年同期（1.8万本）より約0.1万本減少となっており、前年度と同程度で推移しています。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、生垣用樹の約83%を占めます。続いてマサキ、カイヅカイブキでいずれも減少傾向でした。

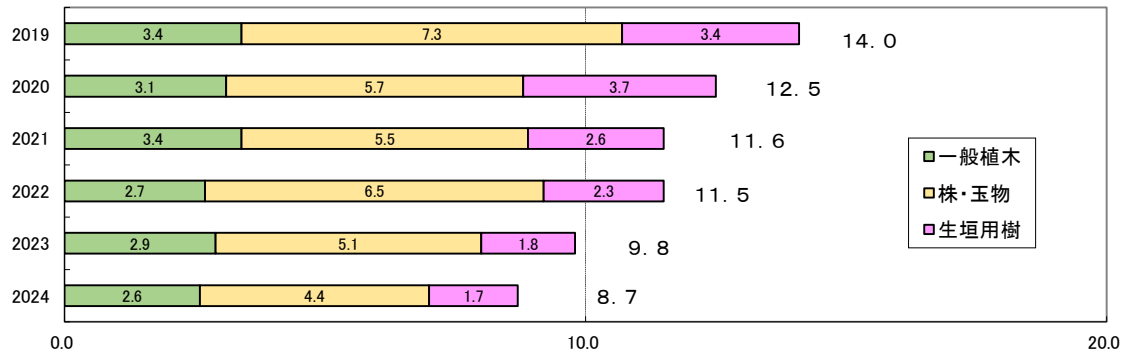
3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

追加樹種を含めた取引上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めています。今期は、オタフクナンテンが増加して順位を上げ、一方、ツツジ類、ドウダンツツジが減少し、順位を落としました。全体的には少量、多品種で推移しています。

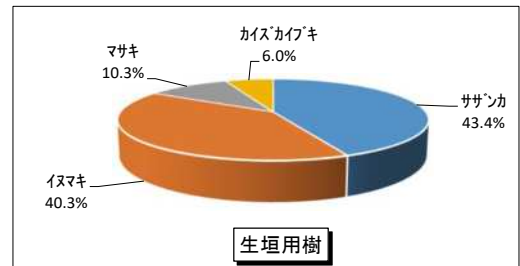
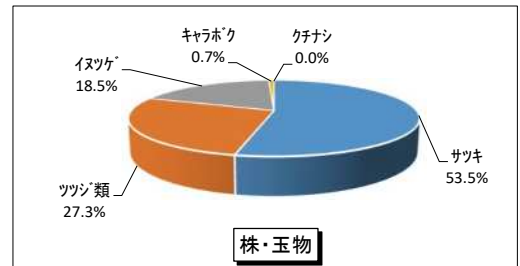
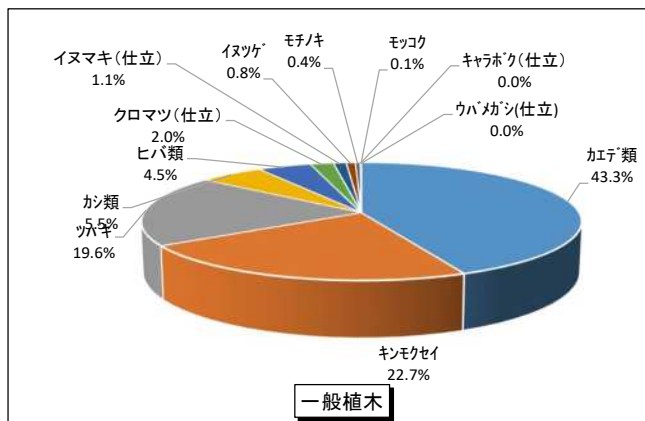
調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）
矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

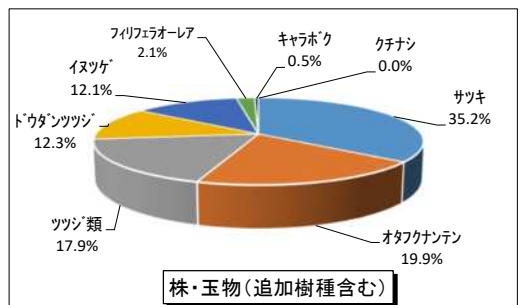
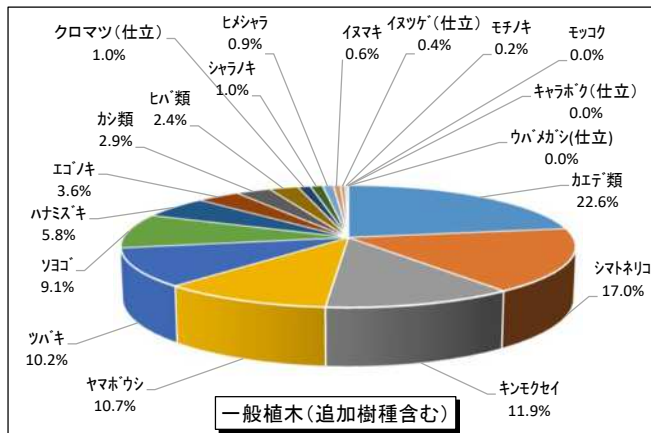
図一 春期取引量の推移（単位:万本）



図二 春期取引量の区別構成比（%）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区別構成比（%）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	令和4年			令和5年			令和6年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↗	ツツジ類	株	↘	オタフクナンテン	株	...
3	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...	ツツジ類	生	...
4	サザンカ	生	...	カエデ類	一	...	カエデ類	一	...
5	シマトネリコ	一	...	ドウダンツツジ	株	...	シマトネリコ	一	...
6	ドウダンツツジ	株	↗	オタフクナンテン	株	↘	ドウダンツツジ	株	↘
7	イヌツゲ	株	↗	イヌツゲ	株	...	イヌツゲ	株	↘
8	カエデ類	一	...	シマトネリコ	一	↓	サザンカ	生	↓
9	ツバキ	一	...	ヤマホウシ	一	...	イヌマキ	生	↑
10	イヌマキ	生	...	キンモクセイ	一	↑	キンモクセイ	一	...

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし

・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹

トピックス

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和6年度は次の3課題に取り組んでいます。

- ・緑化木に発生する病虫害の実態についての調査（令和4～6年度）
- ・高齢化・大木化した緑化木の問題点と管理方法について（令和5～7年度）
- ・移植が難しい樹種・時期等に対処する方法について（令和6～8年度）

ここでは、今年度から新たに取り組んでいる課題の概要を紹介します。

移植が難しい樹種・時期等に対処する方法についての調査 (令和6～8年度)

1 目的

緑化木生産では、樹を大きくするために移植（植替え）が行われるが、移植後に活着しにくい樹種、高温になる時期に移植をせざるを得ない場合の対応策として、6月に移植が困難な樹種に液肥を散布して移植を行い、その効果について調査をする。

2 調査内容

(1) 調査樹木

緑化木および当地方で緑化木として生産・流通されている移植が困難な樹種

サザンカ、キンメツゲ、レッドロビン、イロハモミジ、ヤマモミジ、アベマキ
(常緑：サザンカ、キンメツゲ、レッドロビン)
(落葉：イロハモミジ、ヤマモミジ、アベマキ)

(2) 調査方法

- ① 樹木にパラフィンを含む液肥（モイスチャー）を散布し、各樹種ごとに設定した試験区に移植をする。
- ② 各樹種ごとに設定した対照区には無散布の樹木を移植する。
- ③ 液肥を散布した樹木について、定期的に落葉状況と活着状況を調査する。

(3) とりまとめ

各年度ごとに樹種、植付場等を検討のうえ、3年間で3回調査を実施し、とりまとめを行う。

3 年度別計画

項目／年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1回目	←→		
2回目		←→	
3回目			←→
とりまとめ			←→

4 今年度の調査経過

(1) 調査状況

a 移植前後



R6. 6. 10



R6. 6. 19 現在

b 液肥散布



R6. 6. 12



R6. 6. 12

c 移植状況



R6. 6. 12



R6. 6. 12

緑化木の主要害虫 No.36

アオドウガネ

甲虫目（鞘翅目）コガネムシ科



葉縁を不規則にかじるため食痕は汚い H23.8.23 イヌマキ(愛西市)



大発生し著しい被害を受けたイヌマキ H23.8.5 イヌマキ(愛西市)



カキの葉を不規則に食害する本種 H22.8.8 カキ(愛西市)



イヌマキを食害する本種 H23.7.30 イヌマキ(愛西市)

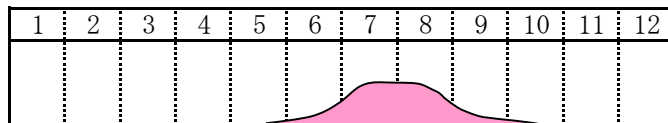
1. 発生樹種

イヌマキ、ウバメガシ、カキ、クリ、ブドウ、サクラ、ヤナギ、アメリカリョウブ、ハギ

2. 害虫の特徴（発生時期、形態等）

体長は18～22mmで、青銅色のドウガネブイブイより、やや小型で濃緑色の個体をアオドウガネと呼ぶ。年1回の発生で、幼虫で越冬し、成虫は6月～9月の長期に渡って出現するが、食害は7月～8月の盛夏に目立つ。

夜行性で、夕方から盛んに活動し、昼間は葉かげなどに潜むため、朝・夕や曇天の日に目にする事が多い。



3. 被害の特徴

イヌマキでは、葉を不規則に噛み切り、食害部位が褐変するので著しく美観が損ねられる。イヌマキの仕立物に大発生してほとんど丸坊主にされたことがあるが、この時は木を叩いて衝撃を与えると10数匹が落下した。

カキなどでも、不規則な食痕をよく見かけるが、ほとんどは本種やマメコガネ、ミノガ類による食害である。

4. 対策

多発期には、葉かげに潜む成虫を見つけて捕殺したり、木をゆすって落下させて捕殺する。薬剤散布も有効であるが、外部から次々飛来する場合は効果は現れにくい。

令和6年6月 Vol. 151

編集：(公財)愛知県林業振興基金植木センター管理事務所
〒492-8405 稲沢市堀之内町花ノ木129

発行：愛知県植木センター

TEL 0587-36-1148 FAX 0587-36-4666